

# ATMに次ぐ取引チャンネルに成長した インターネット銀行

大和田智美●株式会社ストック・リサーチ シニアアナリスト

## オンライン決済特化型で伸びた無店舗ネット専門銀行 インターネットサービスを強める都銀・地銀とどう戦うか

現在、都市銀行のすべて、地方銀行・第二地方銀行113行中111行でパソコンや携帯電話を使ったインターネットサービスを提供している。インターネットはすでにATMに次ぐ重要な取引チャンネルになったといえる。

簡単に都市銀行やネット専門銀行など主なネットバンキングの動きを振り返ると、2000年4月に地方銀行のスルガ銀行がインターネット専用の支店「ソフトバンク支店」を開設、10月にはネット専門銀行第一号のジャパンネット銀行が誕生した。2000年はすべての都市銀行のネットバンキングが出揃った年でもある。そして翌年の2001年はネット専門銀行・ネット専用支店やサービスが続々と登場し、富士銀行（2002年3月にみずほ銀行に）と三和銀行が（2002年1月にUFJ銀行に）それぞれネット専用支店「エムタウン支店」、「インターネット支店」を開設、ソニー銀行、イーバンク銀行、自前のATMとインターネットでサービスを提供するアイワイバンク銀行、そして新生銀行が新たに参入した。2002年は郵貯が実証実験を終え本格的にサービスを開始し、それ以降は新規参入や撤退などの動きはない。ただし、独立色の強かったみずほ銀行のエムタウン支店が2003年9月にみずほ銀行本体のサービスと統合されインターネット支店となったため、「エムタウン」としては事実上撤退した形となる。

### 手数料の安さに注目が集まる

都市銀行や大手地方銀行では、住宅ローンや資産運用相談など対面でのサービスが必要なものを除き、店舗やATMで日常的に利用しているサービスのほとんどをインターネットで提供している。たとえば、振込や残高照会、定期預金や外貨預金、投資信託の購入などである。ネットバンキングはATMまで足を運ばなくても済むこと以外に、インターネットを利用することで振込手数料が安い、あるいは金利が高いなどのメリットがある。たとえば、UFJ銀行の場合はインターネットを利用した他行宛振込はATMでのカード振込の6割程度の手数料で済む。ただし、都市銀行は2002～2003年に残高や利用実績により手数料や金利などを優遇する新サービスを（例：東京三菱銀行「メインバンク」、UFJ銀行「オールワン」など）を導入または強化しはじめ、サービスの優遇という面では、インターネットバンキングよりもこのサービスに注目が集まることとなった。

ネット専用支店は、店舗を持たない分手数料面のサービスが有利という位置付けであるが、これにもっとも当てはまるのは現状では手数料の優遇サービスが多いUFJ銀行インターネット支店のみといえる。

銀行独自の特徴を持つのが、ジャパンネット銀行、ソニー銀行、イーバンク銀行のネット専門組と新生銀行などであり、新生銀行は全国のATMの利用料とインターネットによる振込手数料が無料というコスト面で最も有利なサービスを提供している。ソニー銀行は24時間リアルタイムで取引できる外貨預金に、ジャパンネット銀行やイーバンク銀行は同行宛なら24時間いつでも即時振込が可能な決済サービスに特徴がある。ただし、ネット専門銀行はサービスが限定的であるため（資料6-4-4参照）、メインバンクとしては利用しにくいというデメリットがある。

### 今後もネット専門の強みは維持できるのか

ネット専門銀行に独自色があるサービス、特に決済面に着目すると、今後もこの専門銀行の強みとなるのかどうかは疑問である。たとえばリンク式決済で提携している証券サイトは2002年まではジャパンネット銀行が9社と最多であったが、2003年には東京三菱が追い抜き、UFJが並ぶこととなった。2004年に入っても大手都市銀行は提携先を3～4社増やし、後発の郵貯も2002年から2003年にかけて7社と提携、リンク式決済サービスはネット専門独自のものではなくなったといえる。同行宛の24時間リアルタイムでの振込はネット専門銀行だけのサービスだが、三井住友銀行と東京三菱銀行、スルガ銀行ソフトバンク支店で一般的な締切時間である15時を過ぎた決済が可能になっている。以上のように決済については、都市銀行がネット専門銀行と同等のサービスを提供する日もそう遠くはないと予想される。

ネット専門銀行3行は4期連続で赤字となったが、決済に強いイーバンクとジャパンネットは単月黒字を達成している。しかし、決済機能の面で都市銀行に並ばれてしまった場合には、非常に厳しい立場に立たされるものと予想される。ネット専門銀行は店舗を持たない分、手数料や金利面で差をつけることは可能であるため、まずはその体力をつけるという意味で別の収益源を確保することが急務だろう。

## 日本のネット専門銀行は2000年から

資料6-4-3 インターネットバンキング・ネット専門銀行のサービス開始年

2000年 10月以前	住友→01/04三井住友 さくら→01/04三井住友 あさひ→03/3りそな 大和→03/3りそな 三和→02/1UFJ シティバンク 東京三菱 <b>スルガ銀行ソフトバンク支店</b>
2000年10月	<b>ジャパンネット銀行</b>
2001年1月	<b>富士銀行エムタウン支店</b> →02/04
2001年4月	さくら・住友合併→三井住友
2001年6月 2001年7月	<b>ソニー銀行・新生銀行・三和銀行インターネット支店</b> →02/01 <b>イーバンク銀行</b>
2001年12月 2002年1月	<b>アイワイバンク銀行</b> 三和銀行→UFJ銀行に 三和銀行インターネット支店→UFJ銀行インターネット支店に
2002年3月 2002年4月	郵貯インターネットホームサービス 富士銀行エムタウン支店→みずほ銀行エムタウン支店に→03/09
2003年3月	あさひ・大和のネットバンキング→りそなダイレクトに（2社のサービス併用）
2003年9月	みずほ銀行エムタウン支店→みずほ銀行インターネット支店に

※太字は、ネット専門銀行または店舗のないインターネット専用支店

2000年にネット専門銀行第一号のジャパンネット銀行が誕生し、続く2001年にはソニー、イーバンク、アイワイバンク銀行が相次いで参入。これ以降ネット専門銀行の新規参入はないが、同じく2001年、リテールバンキングに本格的に取り組み始めた新生銀行がATM利用料、振込手数料を無料とする画期的なインターネットバンキングを開始。2002年には郵貯のインターネットサービスが登場した。

## オンラインショッピングや公共サービスとも連動するネットバンキング

資料6-4-4 主なインターネット銀行のサービス（ネット専門銀行・都市銀行・その他）

銀行名	インターネットサービス名	定期預金	外貨預金	投資信託	携帯電話	公共料金の引き落とし	口座維持手数料	振込手数料：他行宛3万円以上	銀行独自のリンク型即時決済	参考：利用できるATM
東京三菱銀行	東京三菱ダイレクト	○	○	○	i V	○	無料	367円	○eペイメント	郵貯以外のATMすべて（銀行・コンビニ等）
みずほ銀行	みずほダイレクト インターネットバンキング	○	○	○	i EV	○	無料	420円	○ネット振込 決済サービス	すべてのATM（銀行・郵貯・コンビニ等）
三井住友銀行	one'sダイレクト	○	○	○	i EV	○	無料	420円	○ウェブ振込 サービス	すべてのATM（銀行・郵貯・コンビニ等）
UFJ銀行	UFJダイレクト インターネットバンキング	○	○	○	i EV	○	無料	315円	○ネット振込EDI	すべてのATM（銀行・郵貯・コンビニ等）
りそな銀行	りそなダイレクト	○	○	○	i EV	○	無料 (条件により無料)	100円	—	すべてのATM（銀行・郵貯・コンビニ等）
みずほ銀行 インターネット支店	みずほダイレクト インターネットバンキング	○	○	○	i EV	○	無料	420円 (04/9/30まで315円)	○ネット振込 決済サービス	すべてのATM（銀行・郵貯・コンビニ等）
UFJ銀行 インターネット支店	UFJダイレクト インターネットバンキング	○	○	○	i EV	○	オールワンe月315円 (残高10万円まで無料)	315円 (残高50万円まで月3回 半額)	○ネット振込EDI	すべてのATM（銀行・郵貯・コンビニ等）
シティバンク	シティバンク オンライン	○	○	○	i	○	2,100円 (残高30万円まで無料)	260円 (残高100万円まで160円)	—	都市銀行・地方銀行・郵貯・コンビニATM（一部を除く・アイワイバンクATMは不可）
新生銀行	新生パワーダイレクト	○	○	○	X	○	無料	無料	—	都市銀行・信託銀行・あおぞら銀行・ 商工中金・郵貯・アイワイバンク銀行・ その他のコンビニATM（一部を除く）
イーバンク銀行	—	○	X	X	i EV	X	無料	250円	○	アイワイバンク・郵貯・ニコスCD
ジャパンネット銀行	—	○	X	X	i EV	○	105円 (残高10万円などで無料)	262円 (残高3,000万円まで無料)	○リンク決済	三井住友銀行・am/pm・E-net・郵貯
ソニー銀行	—	○	○	○	X	X	無料	210円	—	三井住友銀行・東京三菱銀行・ am/pm・郵貯
郵貯	インターネット ホームサービス	○	X	X	i EV	○	無料	130円	○WEB連動振替 決済サービス	ほぼすべてのATM（東京三菱、E-netの 一部、地銀その他の金融機関の一部を除く）

※i=iモード、E=EZweb、V=Vodafone live!

サービス内容は2004年5月20日現在

都市銀行のネットバンキングは、預金・振込・投信の売買のほか公共料金の引き落としなども可能というサービスの幅広さが特徴。一方、ネット専門銀行は、決済特化型、投信・外貨などの資産運用特化型といったようにサービスが限定される。表中の「銀行独自のリンク型即時決済」とは、ショッピングサイトから直接銀行のサイトに移動し、振込手続きをするとその場で決済が済むサービスで、ネットデビットなどのデビット決済とは異なる。特にネット証券で活発に使われている。



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)